

引継式

日時：平成30年6月24日（日）15：45～16：00

登壇者：岩本 健吾氏（農林水産省大臣官房審議官）
安東 隆氏（大分県副知事）
三井 薫氏（山梨県県民生活部次長）

【主催者挨拶】

農林水産省大臣官房審議官 岩本 健吾

〈概要〉

この2日間は、大変貴重な話もあり、色々な地方の実例や、地域の取組の実例を聞き、本当に皆が元気になるような取組だと思いました。天候にも恵まれ、明るく楽しい2日間をお過ごしになられたでしょうか。

ここで学んだ食育の知識を皆さま地元へ帰られた際にはぜひ共有していただき、良い食育推進の活動を行っていただければ幸いです。

また、次回は山梨県と甲府市が共同で食育推進全国大会を開催しますので、またそちらもいらしてください。

食育に関しては、食育基本法を基に進んでいます。基本法が作られてから約10年近くが経ち、基本法に基づく第3次食育推進基本計画は、今年で3年目になります。様々な省庁が関わっておりますが、政府の取りまとめの役割が内閣府から農林水産省に移りました。

食育についての認識も広まっていますが、まだまだ色々な課題もあります。小学校、中学校において新しい学習指導要領を定めましたが、学校においてもしっかりと食育を位置付けて進めています。何よりも、皆様の地域における食育への取組にはとても期待しています。各ブースでも、様々な創意工夫や情報発信をしていただき、この2日間は本当に楽しい日々を過ごしました。来年に向けてまた頑張りたいと思っています。この2日間、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



大分県副知事 安東 隆

〈概要〉

皆様2日間、本当にお疲れ様でした。

本大会の講演会、シンポジウムは本当に素晴らしいものだったと思います。これはひとえに出演者の方々、出展者の方々、スタッフの方々のご尽力の賜物だと思います。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

食育は一日二日のイベントで身につくものではなく、日々考え、食と付き合っていくことで、初めて身につくものだと思います。

日本には和食という素晴らしい文化があります。ぜひそれを食育という観点と結び付けて考えていてもらいたいと思います。外国人からも高い評価を得る和食をぜひ次の世代にも受け継いで行ってもらいたいと思います。

来年の大会は、山梨県で開催されます。富士山もあり、ワインで有名なブドウもあり、山梨県は食育の活動をする上で本当に適した県だと思います。次のバトンを山梨県に託し、食育の継続を図っていきたいと思います。今後とも皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、ここにいる皆様方のご健勝とご多幸、そして、食育が日本中にきちんと広がっていくことを祈念して、ごあいさつとさせていただきます。この2日間、本当にありがとうございました。



引継式

【次期開催地代表挨拶】

山梨県県民生活部次長 三井 薫氏

〈概要〉

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました山梨県県民生活部の三井薫でございます。

まず今年の第13回食育推進全国大会inおおいたの大分県実行委員の皆さま、また関係各位の皆さま方におかれましては、今大会のご成功、誠にめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

この素晴らしい大会を引き継ぎまして、来年6月に農林水産省、甲府市と一緒に開催をさせていただきます。山梨県には世界文化遺産に登録された富士山がございます。また、富士山をはじめとして、南アルプスや八ヶ岳などの山に囲まれておりまして、県全体の面積の78%が自然となっております。四季折々に表情を変える豊かな自然に恵まれております。そんな自然の中で育つ果物は本当においしく、特にブドウや桃、それからすももの生産量は日本一位でございます。

今年度、山梨県におきましては食文化の伝承に力を入れまして、地域に伝わる郷土食を山梨の食と認定をいたしまして、次世代に継承していく取組を進めているところでございます。

来年度の大会におきましては、地域の食文化を未来につなげる取組を紹介し、広めていく、そんな大会にさせていただきたいと思っております。本日大分県からのバトンを引き継ぎまして、一生懸命取り組んで参りますので、ぜひ皆さまも山梨に足を運んでくださいますよう、よろしく願いいたします。心を込めておもてなしをいたします。

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

